

# 『食の安全を考える県民の集い』 - 地産地消の推進 -

主催者代表あいさつ

大西珠枝（岡山県副知事）

皆さん、こんにちは。本日は幸い、秋の天気恵まれ、グリーンヒルズ津山の中のリージョンセンターにおきまして『食の安全を考える県民の集い』を開催いたしましたところ、大変大勢の皆様方にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本日のシンポジウムでは、基調講演を「内閣府食品安全委員会委員の中村靖彦先生」よりいただきましたのち、多田幹郎先生にコーディネートしていただいて、生産者、消費者双方にご参加していただいて、「パネルディスカッション」で、ともに食の安全を考えていきたいと考えております。中村先生をはじめ、パネリスト、コーディネーターの皆様方には遠路お越しいたき、ご協力いただきましたことを主催者として御礼申し上げたいと思います。

ところで、皆様ご承知のとおり、食の安全性につきましては、一昨年ＢＳＥ牛の発見以来、その後、偽装表示でありますとか、輸入野菜の残留農薬など、種々の問題が発生いたしました。消費者の信頼が大きく揺らいでいるところでございます。このため岡山県におきましては、このような事態を受けて、昨年９月には知事を本部長といたします「岡山県食の安全推進本部」を設置いたしまして、県民の食の安全と安心の確保のために全庁的に取り組んで参っているところでございます。

また、食の安全と安心の確保のために、県民と一体となった取り組みが必要ということをごさしまして、広く県民の各層各界のご意見を施策に反映させるために、民間の方々２０名の委員の皆様方のご協力を賜り「岡山県食の安全対策協議会」も設置いたしまして、県の施策についてのご意見・ご提言をいただきますとともに、普及啓発事業に対しご協力をいただいております。

県の食の安全推進本部におきましては、昨年９月に「食の安全推進基本方針」を定めまして、食の生産から消費に至るあらゆる段階で、安全安心を確保するための取り組みを皆様と一体となって進めております。昨年度も総社の県立大学におきまして「食の安全を考える県民の集い」第１回を開催いたしましたし、最近の取り組みでは、この夏には小学生と保護者の方々に参加いただいて、「食の安全・安心探検隊」を開催いたし、有機無農薬野菜・食肉・牛乳・菓子の生産加工現場を訪問し、安全な食を提供するために各段階において、どのような取り組みがなされているかを、実際、現場を訪ねて見ていただき、体験していただくという取り組みもしております。さらにはご承知のように、県産和牛肉のような生産の由来ということで、トレーサビリティの確保ということでその情報を提供すると

ということもしております。

このような食の安全の確保におきまして、いま食品として食の安全がすごく求められているという、消費者の強い要請であるということを生産者の皆様、また流通・加工の皆様方が十分に理解して、そのように当たっていただくということが重要でありますし、その反面、生産者がその安全性を確保するために大変な努力をしているということ、これを消費者の方々がそれを十分理解し、それを高く評価するということも大事かと思えます。

こうした生産者と消費者を直接結び付けていく一つの考え方、運動として、「地産地消」ということがございます。本日のテーマといたしまして、この「地産地消」を取り上げまして「地産地消」を通じて食の安全を考えていくということとしたわけでございます。

「地産地消」につきましては、県では別に「岡山県地産地消推進協議会」を設立し、また各地域の地産地消協議会を設置するなど積極的に推進しております。本日も隣で県北地域のJAの方々や各地の皆様方の協力を得て、農林水産物の展示即売、そして試食体験等もさせていただいておりますが、これも「地産地消」運動の一つの取り組みでございます。

本日はそういうことで、地産地消の推進ということテーマといたしまして、限られた時間ではございますけれども、皆様方と一緒に食の安全について考える時間を持ちたいというふうに考えております。本日のこのシンポジウムが実り多いものとなりますように、また今後の生産者、消費者それぞれの立場におられる方々につきまして、非常に有益なものになりますように祈念しているところでございます。どうか皆様方には、積極的にフロアからもご参加いただきたいと思います。と存じております。

以上で、本日のシンポジウムの開催にあたりましての主催者としましての、ごあいさつとさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。